

第10回 軽井沢22世紀風土フォーラム基本会議

【日 時】 平成29年11月28日（火） 10:00～11:55

【場 所】 軽井沢発地市庭 イベントスペース

【出席者】 基本会議委員：石坂洋二委員、市村初仁委員、鈴木幹一委員、
須永久委員、横島庄治委員、志立正嗣委員
島崎アイコ委員、貫名礼恵委員、青木健太郎委員、
内堀英希委員、遠藤寛士委員、荻原確也委員、
児玉大輔委員

内 容

1. 開 会

2. 会長あいさつ

- ・ 本日のフリートークでは、任期2年間の活動の集約と今後の展望についてご意見をいただきたい。
- ・ 行政と住民が、新しいイコールパートナーとしてのスタイルを、どう確立できるかチャレンジしてきた。各委員において、達成感の温度差はあるにしろ、皆さんの協力を得て実験炉としての役割は果たせたのではないかと。来年度以降は、実験炉から実用炉に移らなければいけないが、イコールパートナーと言いながら、不等記号が多かった事も実感している。しかし、あえてそれを埋める努力はしなかった。なぜなら不等記号から発生するエネルギーを、新しいまちづくりのエネルギーとして、軽井沢のまちづくりに活かすことに注力してきたからである。不等記号から出てくる面白さを実感しつつ、今後は本当の意味でのイコールパートナーとなるための手法・方式・思想について、忌憚のないご意見をいただきたい。

3. 議 事

(1) 軽井沢の将来を考えるワークショップイベントの報告について

○軽井沢の将来を考えるワークショップイベントの報告について、事務局より報告。

| | |
|-------|----------------------------------------------|
| 【実施日】 | 平成 29 年 11 月 17 日（金） |
| 【場所】 | 軽井沢発地市庭イベントスペース |
| 【講師】 | 宮内順氏（元東海大学経営学部観光ビジネス学科教授） |
| 【テーマ】 | 第 1 ラウンド『軽井沢の課題は何か』 第 2 ラウンド『軽井沢ブランドとは何か』 |
| 【参加者】 | 25 名（町民・別荘民・基本会議委員など） |

○第 2 回ワークショップイベントを、平成 30 年 1 月 18 日（木）に軽井沢発地市庭イベントスペースにおいて実施する。

【意見交換】（発言順）

A 委員

ワークショップでの意見を、基本会議にどのようにリンクしていくのか検討したい。

会長

今回のワークショップは、どんな反響があり、どんな人が集まるかという手触りの段階から入った。基本会議から出席した委員より、どのような実感を得たのか、感情を交えた報告を聞きたい。

B 委員（ワークショップ参加委員）

軽井沢で生まれ育った人や最近軽井沢に引っ越して来た人等、千差万別な人たちと話し合う事ができ、色々と意見が飛び交う面白い内容であった。軽井沢で生まれ育った私としては、移住してきた人の考えや気づきを聞ける場となった。次回のワークショップでは、若い人や昔から住んでいる住民に多く参加してもらえると面白い意見が聞けるのではないかと。

C委員（ワークショップ参加委員）

最初は知らない人同士での話し合いの中で、けん制し合う部分もあり、熱量の違いも感じた。テーマ「軽井沢の課題は何か」については、次々と意見が出たが、「軽井沢ブランドとは何か」については、考えを絞り出すような場面も見られた。軽井沢ブランドというテーマが、曖昧で答えを出しづらかったのかも知れない。ワークショップを通して、これから何かを新しく作る事も大事だが、今ある物を確立するのもよいと感じた。

D委員（ワークショップ参加委員）

基本会議委員の立場として、どのように基本会議に結び付けていけばよいのか考え参加した。移り住んできた人の話を聞くと、当初の軽井沢に対する期待は高かったが、段々違和感を抱く事もあったようだ。移住してきた人や別荘者は、昔から住んでいる住民との交流を望んでいると感じた。今後、軽井沢で生まれ育った人や地域の若い人ともっと話しができるような仕掛けを考えたい。

第2回ワークショップは、1回目に参加していなくてもよいのか。

事務局

継続性からすると、第1回目の参加者に来てもらえれば望ましい。しかし、同じ人が参加できるとは限らないので、次回が初めてでも流れに乗れるような形で進めると、講師から聞いている。

D委員

限られた時間であったため、結果的に意見を出し合い終わってしまった。意見をある程度集約し、軽井沢グランドデザインにどう結びつけるべきかを考えているので、可能ならば同じメンバーで話しを深めた方がよいと思う。

会長

イベントの返し方は、行政・風土フォーラム基本会議・町長と色々あるが、一番素直なやり方は、参加者から意向を聞き、風土フォーラム基本会議に返し、中で揉みながら味付けをして、町政に時あるごとに出していく形がよいのではないか。1回目と2回目の議論が必ずしもか

み合わなくても、実施する事に意味があると捉えている。

E 委員

ワールドカフェ実施の目的は、その場で明確な結論を出す事ではない。全体の空気をかえ、緩やかな方向性に導く場合に有効な手段である。ワールドカフェ実施をきっかけに、別荘者と定住者に交流が生まれ、軽井沢の今後に向かうような動きに繋がり、風土フォーラムの主要な活動に育てばよい。私としては、ワークショップでの意見一つ一つを取り上げるよりも、数年後この活動を踏まえた時に、住民の交流がどんな姿になっているのかを設計し、そこから生まれた事が、蓄積の中の分析面と、本質的な課題として軽井沢の将来像をこの風土フォーラムの中でいくつか見つけられる事が、50年100年後の軽井沢に向かい大きな財産に繋がれば嬉しい。

会長

慌てない事が大事である。積み上げ方式で、いつの間にか育つ効果が、大衆議論の中から出てくる。

F 委員

軽井沢ブランドと聞くと、物や歴史文化等、幅が広すぎて答えがバラバラになってしまう。例えば、「軽井沢らしさ」とすれば考えやすいのではないか。また、「軽井沢の課題は何か」については、個々に思う事はたくさんあるようなので、道筋があるとまとめやすいし、議論が深まると思う。

会長

軽井沢ブランドと聞いて、それをお土産品のブランドと受け取るか、5月の風の価値と受け取るかは人それぞれである。軽井沢ブランドをテーマにした事は、かなり読みの深い設定だと思う。入口は全然違うが、最後に到達するところが一緒ならよいというディスカッションのフォーマットを身につける事も大事である。

(2) プロジェクトチームについて (各プロジェクトチームの近況報告)

○軽井沢駅北口ステーションフロント構想プロジェクトチーム (以下、軽井沢駅北口PT) について、事務局より報告

- ・平成 29 年 11 月 20 日に第 6 回会議を開催し、軽井沢駅北口の在り方、機能、将来像という全体像を認識しつつ、個別課題としての駅と周辺施設とのつながり、連続性について議論した。
- ・地元住民からなる「新軽井沢の明日を語る会」(以下、語る会) から、横町(駅前本通りの一本西の通り) や矢ヶ崎公園周辺に関する提案があった。
- ・今年度の会議予定
第 7 回会議 1 月 26 日 (金) 13 時から
第 8 回会議 2 月 16 日 (金) 13 時から
第 9 回会議 3 月 6 日 (火) 13 時から

G 委員 (軽井沢駅北口PT構成員)

語る会では、横町を蘇らせ、歩いて楽しめる道にしたいと考えている。また、矢ヶ崎公園の池に名前を付け、観光資源として活用したいという提案もあった。その辺を踏まえ、新軽井沢、旧軽井沢一帯を歩いて回遊できるような仕掛けを検討したいという有意義な意見交換ができた。

会長

地元住民から提案が出たことは凄い成果である。コンサルタントから提案が示され、そこに地元住民からの案がぶつかり熱い議論となり、理想的な展開になりつつある。この手法が出ると、町民の参加が期待でき、モデル的展開として他のエリアにも報告ができる。来期に向け第 2 のエリアデザインについての意見も聞いていきたい。

○チームみらいえプロジェクトチーム (以下、みらいえPT)

「伝説の山の宝を探せ～謎解き！軽井沢の冒険～」イベント報告について、H 委員 (みらいえPT座長) より報告

- ・平成 29 年 10 月 6 日 (金) 伝説の山と称した離山に登りフィールドワークを実施した。
- ・参加者は、児童 17 名。(小学 1 年生から 4 年生)

- ・フィールドワークを通じて、軽井沢の歴史、定点観測、生息植物への関心、離山の起源などを学んだ。

会長

子供たちの心に、確実に何かが残った事は確信が持てる。それを家庭に持ち帰り、子供たちの持つ無限の可能性が、新しいスタイルのまちづくりの開拓精神となる。その事への期待は、50年100年先のエネルギーに繋がる。みらいえPTイベントやワールドカフェの取り組みを通し、軽井沢町は非常によいところに辿り着きつつある。慌てず騒がず、継続する事の意味合いをしっかりと心に持ち事業を続けていく事で、長い計画の一部が着実に進む事を確信した。

D委員（みらいえPT構成員）

今回のイベントでは、森林インストラクターの方に協力いただいた。今後のプロジェクトチームについても、地域の人々の力を借りていく展開がよいと思う。

(3) その他

○風土フォーラム事務局に寄せられた意見について

- ・風土フォーラム事務局に寄せられた意見を、まちづくり提案の形に繋げていきたい。

○その他

- ・風土フォーラム事務局は、11月より水曜日を中心に地域へ出向き、地域の方々に話しを聞く活動を始めた。
- ・SNSについて、試験的にFacebookとTwitterの運用を始めた。

【意見交換】（発言順）

E委員

風土フォーラム事務局が地域へ出向く活動の一環として、東京の会

社のオフィスを利用したらどうか。別荘者が、東京の感覚で軽井沢を眺めた時に、どういう意見を持っているのか聞けると思う。風土フォーラム in 東京を計画の際には協力したい。

会長

ありがたい提案である。ワールドカフェの 3 回目を東京で実施する計画がある。G 委員に協力いただき検討しているので、今の申し出も含め検討材料としたい。ワールドカフェ in 東京についての構想について、現状を説明いただけるか。

G 委員

別荘コミュニティの会があり、会員数約 180 名で定例会等を開催している。東京でのワールドカフェ実施は、この会を中心に、集客を考えている。別荘の人は、普段は役場と接点が少ないので、意見交換ができるよいチャンスだと思う。

会長

昨年度は、風土フォーラム事務局へ寄せられた意見の中から、ビジネスライセンスを町に提言し、現在町で検討している。今年度も、町への提言について実施するか意見がほしい。

I 委員

町への政策提言も必要だと思うが、もう少し住民の方を見て、風土フォーラムを広めていく事に注力したいと思う。皆さんの判断に任せるが、個人的には町へ政策提言する事についてはそれほど重きを置いていない。

J 委員

今年度に拘らず、様子を見ながら確実性のある提案を提言した方がよい。

会長

1 年に 1 提言という縛りは無い方がよいという意見が出た。基本会議の姿もあるので、考えがあれば申し出て欲しい。また、風土フォーラム事務局に寄せられた意見の資料として、基本会議ごとに提示しているが、この資料内容について個人のプライバシーを侵さない程度に、提言

者・訪問者の姿が見える形にした方がよいか。

E 委員

風土フォーラムに寄せられた意見を、住民等が見ればとても勉強になると思う。内容は広く周知した方がよい。

事務局

町ホームページで、今までに寄せられた意見はカテゴリー別に掲載している。

会長

風土フォーラム事務局の担当者として、訪問者と直接話しをしているので、訪問者の特性について印象を語ってほしい。

事務局

事務局の場所が分かりづらく、入りづらいという意見をいただく。これらの意見を踏まえ、今後は事務局が積極的に外へ出ていきたい。常連の人もいるが、内容は毎回違う話しをされている。

会長

最初は愚痴、我儘な意見も聞かれ、風土フォーラム事務局が苦情機関になるのでないかと心配していたが、そういう時期を脱してワンランク上がり、建設的な政策提言に昇華してきたように感じる。聞き取りをして、政策的に洗練する作業をどこかでしなければ、聞いただけでは失礼になる。町長も気にしており、返事が出来るものに関しては、返したいと思っているが、別のスタンスがあってもよい。

4. 事務連絡

○次回日程調整について

5. 閉 会